

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	線形代数B	
科目基礎情報							
科目番号	0062			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	「新線形代数」高遠節夫 ほか著、大日本図書／「新線形代数問題集」高遠節夫 ほか著、大日本図書						
担当教員	白坂 繁,村上 浩,熊谷 博,松浦 將國						
到達目標							
3 -a							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	線形変換の定義や性質を説明できる。さらに、線形変換による点や直線の像を求めることができる。			線形変換の定義や性質を説明できる。		線形変換の定義や性質を説明できない。	
評価項目2	線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。さらに、原点を中心とした回転移動を行列によってあらわすことができる。			線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。		線形変換の合成変換や逆変換を求めることができない。	
評価項目3	行列の対角化を行うことができる。さらに、行列の対角化可能条件を説明できる。			行列の対角化を行うことができる。		行列の対角化を行うことができない。	
評価項目4	直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。さらに、対角化の応用として、行列のn乗や2次形式の標準形を求めることができる。			直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		直交行列により対称行列の対角化を行うことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1) 平面における1次変換についての基本的事項を学び、回転など図形的な問題への応用を考える。 (2) 固有値、固有ベクトルについて学び、行列の対角化が行えるようにする。						
授業の進め方・方法							
注意点	本科目は講義・演習形式で行う。以下の点に留意して学習すること。 (1) 教科書等を参考に予習を行い、講義に臨むこと。 (2) 受講後は要点をまとめ、問題演習を行い、学習内容の定着をはかること。 (3) 疑問点は質問を行い、後に残さないように心がけること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	線形変換		☐ 線形変換の定義や性質を説明できる。		
		2週	直線と点の像		☐ 線形変換による点や直線の像を求めることができる。		
		3週	合成変換と逆変換		☐ 線形変換の合成変換や逆変換を求めることができる。		
		4週	回転		☐ 原点を中心とした回転移動を行列によって表すことができる。		
		5週	直交行列と直交変換		☐ 直交行列と直交変換の定義や性質を説明できる。		
		6週	行列の階数と線形独立		☐ 行列の階数と線形独立なベクトルの個数との関係を説明できる。		
		7週	1次独立と階数 中間試験		☐ 行列の階数と線形独立なベクトルの個数との関係を説明できる。		
		8週	固有値と固有ベクトル (2次)		☐ 行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。		
	2ndQ	9週	固有値と固有ベクトル (3次)		☐ 行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。		
		10週	行列の対角化 (2次)		☐ 行列の対角化を行うことができる。		
		11週	行列の対角化 (3次)		☐ 行列の対角化可能条件を説明できる。		
		12週	直交行列による対角化 (2次)		☐ 直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		
		13週	直交行列による対角化 (3次)		☐ 直交行列により対称行列の対角化を行うことができる。		
		14週	行列の対角化の応用		☐ 対角化の応用として行列のn乗や2次形式の標準形を求めることができる。		
		15週	試験答案の返却・解説		各試験において間違えた部分を自分の課題として把握する (非評価項目)。		
		16週					
評価割合							
		試験		課題		合計	
総合評価割合		75		25		100	

前期成績	75	25	100
------	----	----	-----